

令和 6 年度

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人一秀会		
事業所名	グループホームつどい ひまわり棟		
所在地	〒021-0002 一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、その人らしく暮らせるようにサービスを提供し、地域に根ざした事業所を目指しています。現在まだ、コロナ禍の為、外出も控えており、最小限お花見、紅葉ドライブは出かけております。室内では、折り紙で作品を作ったり、季節ごとに制作した物を飾って楽しんでいます。また、日々の生活の中で役割や楽しみを持ち、生き生きとした生活が送れるように、四季折々の行事やレクリエーション活動を職員も共に楽しみながら、実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2棟からなり、周辺には大型ショッピングモールや体育館、公園などがあって、市内には系列の複数の介護事業所がある。開設以来、地域の方々から日常的に声をかけていただき、水害発生時には地域の方々の協力を得て避難できる環境にある。氏神社の神事、祈願祭などの行事、自治会の清掃活動等には職員が積極的に参加している。理念は毎月の職員会議において確認、共有に取り組んでおり、毎月利用者一人ひとりについて丁寧なモニタリングを行い、本人、家族の意向を基本として職員からの意見、提案を集約し、理念が介護計画に反映されるよう意識して取り組んでいる。利用者一人ひとりの医療ニーズに対して、かかり付け医療機関への通院、訪問診療、法人内看護師の定期的な訪問などにより医療との緊密な連携が図られている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年3月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、その人らしく暮らせるようにサービスを提供し、地域に根ざした事業所づくりを目指し、それを踏まえて運営理念を作成している。理念に付いては事務所、リビングに掲示し、月会議では理念を復唱している。職員間のコミュニケーションを密にし、日々の支援に繋げている	毎月の会議で理念を復唱・共有し、理念が利用者一人ひとりの介護計画にも反映されるよう意識して取り組んでいる。理念の下に各ユニットでは、前年度の取り組みを振り返って毎年度の目標を設定し、四季折々の行事開催や作品の製作などに意欲的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎月広報誌を届けていただいている。コロナ禍において、現在は交流はほとんどなくなっており、挨拶等を交わす程度である。地区の清掃活動、五穀豊穡祈願祭等は地区の一員として職員が参加している。	地域の清掃や草刈り、五穀豊穡祈願など地域行事に職員が参加交流し、また、近隣の小学校の文化祭に出品した利用者の作品と会場の様子を写真撮影し皆で鑑賞している。隣接のデイサービスの行事にも参加し、保育園児や地域の方とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けて現状では何も出来ていないが、今後何か出来れば、と思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状開催できていないが、事業所の現状報告を資料にて行っている。また、資料配布の際に市の委託担当員、区長、老人クラブ会長、民生委員に手渡しの際に、日常の利用者様の様子を写真にて報告している。	コロナ禍の影響もあって書面開催としているが、会議資料を持参した都度、ホームの状況等の説明を行い、意見を伺うようにしている。その際、地区での行事や工事による交通規制など、地区での身近な情報をいただいている。	運営推進会議委員として、専門的な立場での助言が受けられるよう、消防署(団)、警察署からの参加についても検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話、メール、FAXにて情報を頂いている。不明点は担当課へ連絡又は足を運び、協力を頂いている。	国県等の行政情報はメール等で伝達されるなど、日常的に連携している。利用者の入退居の報告、事故報告、事業申請、制度改正による人員配置の相談は、市の担当窓口に出向いて行っている。生活保護受給者については、定期的に文書による状況確認が行われている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の全体会議にて身体拘束について勉強会を開いている。また、事業所内研修も行い、理解を深めている。日中は玄関の施錠を基本的には行わっておらず、身体拘束をしないケアに努めている。	法人として指針を策定している。委員会活動は事業所ごとに実施し、毎月、事故報告と併せて身体拘束の有無を確認し、3ヵ月毎に研修を実施している。特に認知症を前提とした言葉掛けから来るスピーチロックについては、適当な言い換えや表現等について質問形式での研修を取り入れている。即座に対応できるよう、転倒防止を目的とするセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議(内部研修)の際、高齢者虐待についての学習会を行い、理解を深めている。また、常日頃から注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議(内部研修)の際、権利擁護についての学習会を行い、職員全員で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応している。契約時に密にならないように事前に書面や電話でやり取りをし、不安や疑問点に対応するようにしている。また、解約後の疑問や不明点等も説明にて納得頂くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書の発送時に不明点があれば気軽に連絡を頂けるように記載し、意見を頂いた方には対応をするように心がけている。また、意見を言い出しにくい場合も考えられる為、玄関にご意見箱を設置している。	面会は玄関で窓越しで行っており、日用品の入れ替え時や定期的な通院付き添いなどの機会を通して、要望等を伺うように努めている。運営に関する意見等は出されていない。運営推進会議には家族全員に案内状を出し、出席できる家族に参加していただけるようにしている。	

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に上がった意見に関して、具体化をするように心がけている。疑問に関しては法人総務へ相談し、その後開示するようにしている。	毎月の職員会議や日常の申し送り、連絡ノートなどを通じ職員の意見・要望を把握している。法人本部への経営状況等の報告には管理者が対応している。職員の提案でトイレ内の物品スペースの見直しや、パルスオキシメーターを両ユニットへ配置し、体調変化把握の改善につながった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修の支援を行っている。また、業務に伴う道具や仕組みの改良等、職員から出た意見を汲み取り、環境改善にて働きやすい職場になるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では月に1回、内部研修を開いて職員一人ひとりが勉強をしたい資料を作り、発表し、ケア向上に努めている。定期的な学習会や会議にて他職員の意見を聞く等、実践に活かせるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上や、同業者との交流の場を設ける為、外部研修への参加を促している。現在は、コロナ禍の中であまり出来ていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族様とお話をし、困っていること、不安なこと、意向を聞いている。生活しやすい環境を作り、他利用者様との関係性も築いていけるよう支援している。、要望や不安な事等を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なことを把握し、どんな生活を送りたいか意向も聞きながら家族との関係性も築いていき、サービスの提案をしていく。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査、ケアプラン立案では、利用者やご家族が最も支援してほしい事をサービスとして導入している。支援方法として、その方の変化や状況に合わせ対応方法を変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活の意欲を高めるよう、役割を持って生活できるよう支援している。洗濯たたみ、シーツ交換、食器拭き等一緒に行っている。本人の「出来ないところ」はお手伝いし、一緒に行えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や出来事を毎日記入し、1カ月分を月初めに家族に送付している。その他面会時や電話連絡にて状態の報告を行ったり、家族様からの要望を聞いて関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍で、玄関先での面会を実施している。必要に応じて電話で会話をいただいている。お部屋に家族写真を飾っているご利用者様もいる。	コロナ5類移行後、家族や親類からの面会の問い合わせが増えている。家族付き添いで法要に出掛ける方や普段いつでも携帯電話で家族の写真が見れるようにしている方もいる。2カ月に1回、定期的に美容師の訪問があり、新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、テーブルや席に配慮している。職員が間に入りながら、利用者同士関わりを持って頂き、過ごしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても、入院中の状態を伺いながら、空き次第再入所出来るようにご家族や医療スタッフと相談したり、他施設の情報提供をしている。		

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際にBS法を用いて本人の意向を考え検討している。居室担当を中心に日々の様子や気づきを大切に、本人の思いを読み取り把握に努めている。	半数ほどの利用者が言葉で意思表示ができ、難しい方については、表情や動作、仕草などから思いや意向を汲み取るようにしている。ケアプラン作成に当たっては、本人と家族の意向をもとに職員全員でブレインストーミングにより意見を出し合い(ひまわり棟)、取りまとめてケアプランに思いや意向を反映させている。出し合った意見やアイデアは、貼付して保管している。新たな視点、忘れかけていた取り組みに気付かされるメリットも多くある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	査の際に、ご本人やご家族様から、生活歴や馴染みの暮らし方、どのような趣味があったかなど、お話しを伺い把握に努めて今後のケアに繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録(日中・夜間の様子・食事・水分・排泄・バイタル等)をとり、職員へ申し送りをし把握に努めている。毎月カンファレンスを開き、見直しを行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意見、要望を取り入れ、介護計画を作成している。カンファレンスでは、BS法を使い、ご本人の日々の様子や変化について意見を出し合い、介護計画(ケアプラン)に反映させている。	毎月、利用者全員を対象に担当職員が評価し支援経過をまとめたうえで、計画作成担当者が主となって介護計画を作成している。ケアプランは、3か月から6か月の期間での見直しを原則としている。家族からは、電話や面会、受診同行で来所した際に意見を伺うようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や実践結果を記録し、介護計画の見直しに活かしている。カンファレンスや申し送りを利用して、職員間の情報の共有化を図っている。			

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの希望に応じて、訪問診療や訪問理容のサービスを利用している。外出や通院時の送迎、書類手続きの支援等を行っている。必要な物品購入も職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけの病院や、調剤薬局を利用、相談する事で、不安なく暮らせるように支援している。また、訪問美容院を活用している。誕生会、行事では宅配サービス、飲食店、菓子店を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り入居前からのかかりつけ医に通院し、ご本人の状況やご家族と相談しながら受診している。受診後にはご家族への報告や相談をしている。	家族が同行して入居前のかかりつけ医を受診している。認知症の専門科以外の場合は事業所の協力医療機関を受診しているほか、皮膚科医師の訪問診療を受診している方もいる。週1回、法人看護師の訪問を受け随時相談できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	に1回の訪問看護師来所日に、一人ひとりの様子や状態を報告している。何か変化があった時には相談をし、早期に対応が出来るよう看護師との連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、くらしのシートを病院に提出し、入院期間中も病院や家族から定期的に状況を聞き、状態の把握に努めている。病院の相談員、家族と連携に努めています。		

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化や終末期に向けての方針を説明し理解頂いている。本人に状態変化が見られた際には家族及び主治医に報告を行い、今後の体制を整えている。	看取りの対応については、希望される家族やかりつけ医師の判断、家族の協力を得られる等の条件が整うことを前提に、医師の指示に従って対応している。看取り対応が決まった際には、看護師による職員への研修を行っている。重度化対応指針は策定しているが、建物設備上入浴介助が困難な場合もあることを家族に丁寧に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに伴い、職員は各自の役割を適切に行えるように、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災を想定した避難訓練と消火訓練や勉強会を行っている。	年2回の訓練を実施し、1回は夜間想定訓練を行っている。ハザードマップ上では浸水想定区域とされており、水害時は地域の方々から避難の声をかけてもらうこととしている。訓練の際、避難した利用者の見守りを以前お願いしたこともあり、地域との協力体制の再構築を検討していきたいとしている。非常時用食料等は、3日分程度を備蓄している。	非常時の安全確保に当たって、地域の連携協力が必要と思われます。運営推進会議の意見等も伺いながら、協力体制の再構築に向けた検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の時など、大きな声で言わないよう、不快な気分にならない言葉かけをするよう心掛けている。また、利用者一人ひとりの目線に合わせて、傾聴の姿勢にて言葉かけをしている。言葉かけをするときは出来るだけ周りに聞こえないような声のトーンでお話するようにしている。	団体生活の場であるとはいえ、一人ひとりの興味、関心に違いがあることを前提とした活動の提供に配慮している。呼称は、さん付けを徹底している。本人の意欲を尊重しお手伝い等をお願いしている。異性による介助があることを説明し解いただいているが、入浴等の場面などで、その都度確認し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを話して頂いている。職員間で相談しながら希望実現に取り組んでいる。耳の遠い方には、耳元で話しかけるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添って本人の希望を聞きながら支援している。本人の決定を尊重するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の着替えについては、希望やその日の天候などを踏まえて話をしながら支援している。髭剃りが難しい男性ご利用者様には、お手伝いする事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、配膳、食器洗い、拭きを職員と一緒にやっている。おかずの彩を考えながら盛り付けを行っている。	ご飯、みそ汁はホーム内で調理し、副食は法人内施設で調理したものを提供している。メニューは決められたものであるため、誕生会などの行事の際は、注文を止めてホームで調達し対応するようにしている。利用者は食後の片付け、箸、お茶の配り方、手指消毒等の手伝いをお願いしている。フードプロセッサー等で食事の形態が変わる方もおり、献立を掲示し食前にメニューを説明している。おやつは職員も楽しみながら手作りのまんじゅう等を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量や硬さ加減、大きさ等を考慮し提供している。定時に好みの飲み物を提供し水分補給を行っている。入浴後にはスポーツドリンクの提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。職員が口腔状態を把握し、介助、声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンも把握し声がけ、誘導を行っている。立ち上がりや、落ち着かない場合も一つのサインとして受け入れ誘導を行っている。	食事、就起床前後の声掛けや誘導、一人ひとりの排泄パターンや前日の排泄記録を把握したうえで対応している。夜間にオムツ使用している方はひまわりが1名、たんぽぽは定時誘導でオムツ使用の方はいない。在宅中に便秘だった方が、入居後にバランスの取れた食事、水分摂取、排泄の誘導、服薬に加え、温度管理された生活空間の提供により改善された方もいる。排泄を失敗した際には自尊心が損なわれないよう、さりげない声掛けに努めている。	

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録管理を行い、必要に応じて下剤調整を行っている。また、利用者とラジオ体操をしたり、起床時に牛乳等の乳製品の摂取も頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体の時間は決まっているが、本人の希望に応じて入浴の変更を行う等の配慮をしている。また、身体の状態や本人の希望でシャワー浴に変更している。	月曜日から土曜日の週2回、一人ひとりのスケジュールに合わせて提供している。体調等により清拭やシャワー浴に切替えるなど柔軟に提供している。職員との1対1の時間でもあり、話が弾むひと時でもある。時季によって柚子湯や入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に配慮し、昼食後は午睡の時間を設け、促している。体力的に休息が必要な利用者様には、本人の希望や状況に応じて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を確認して、指示された内容で服薬管理を行っている。服薬の際には職員二人で必ず確認を行い、服用している。服用後も職員二人で確認するようにしている。症状に変化が見られた場合は医師に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の興味や得意なことを見つけ、簡単なお手伝いや、体操、製作作り等の参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍の影響で病院受診以外の外出支援は行っていない。行事等で少人数に分けてのドライブを行うようにしている。	新緑や花見の季節には全員でドライブしている。また、少人数、個別に個々の関心のあるスポット(公園、SL、駅など馴染みの場所)を巡る短時間のドライブは、利用者にとって特別感を味わえる時間ともなっている。家族の付き添いで自宅周辺に出掛けられる方もいる。また、通院受診後に近郊をドライブして来たりと工夫している。天気の良い日はウッドデッキでラジオ体操や日光浴で過ごすようにしている。	

事業所名 : グループホームつどい ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理している利用者様は、おりません。本人の希望に応じて何かを購入する時は、立て替えて、後で家族より頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望に応じて、家族と電話でお話している。家族より、お祝いの品物が届くとお礼のはがきを出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春夏秋冬に合わせて、リビングの飾り付けを利用者と職員と一緒に作成し、季節ごとに制作を変えている。完成した達成感を味わって頂く。また、共用の空間に関しては不快感を感じないように都度掃除、除菌を行っている。	季節が感じられる貼り絵、塗り絵などの作品を掲げたり、手作りの日めくりカレンダーも作成し掲示している。ホールには、食事や活動、利用者の状況等に応じてレイアウトが変えられるテーブルが配置されている。利用者の中には、自分から掃除を手伝ってくれる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子を設置し、個々が寛げる工夫をしている。ウッドデッキにはベンチを用意し天気の良い日は外気浴や散歩をし、気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様との写真、自分で作成した塗り絵や作品等を季節ごとに飾っている。お部屋にテレビを設置し見たり、ぬいぐるみを置かれたり自由に過ごされています。	居室には、ベッド、エアコン、クローゼットが設置されており、テレビやラジオ、衣装ケースや家族写真、手作りの作品を持ち込んで、好きな場所に置いたり掲げて部屋を飾っている。位牌、遺影を持ち込まれている方もおり、必要な方は入口に自分の名前を掲示している。室内の整頓や清掃は職員が中心に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物のたたみ、シーツ交換のお手伝い、食器拭き、テーブル拭き等を行い自立した生活が送れるように、その方にあった工夫、支援を行っている。		